

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所が作った理念を管理者と職員は共有し意識し、目標を持って実践していく。	理念を事務所内に掲示し、引き継ぎの際、唱和している。ミーティングを通じて、統一したケアを目指している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の中の利用者であると認識し、地域活動に参加するよう努めている。	町内行事(川掃除・お祭り等)に積極的に参加し、地域の方々と交流している。地元の畳屋さんが町内会長であり、民生委員でもあるので、様々な面でアドバイスをもらっている。また、決まったお店で買い物する等、地域との繋がりを大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	他の事業(訪問、通所)もやっており、地域の人に少しずつ受け入れてもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の取り組みや具体的な課題、評価を地域の方に理解してもらえるように努力している。	家族や市町村関係者を招いての定期的な運営推進会議は行われていないが、毎年行う外部評価結果に基づいて、サービスの向上に繋がる小規模な運営推進会議を事業所内で随時行っている。	運営推進会議の定期開催に向けて取り組んでほしい。また、行政や地域の方々、家族にも参加して頂き、行事や課題について話し合ったり、聞いてもらう機会を持つことも必要だと思います。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	認定更新の機会に市町村担当者へ利用者の暮らしぶりやニーズを伝え連携を深めている。	認定更新の際に、福祉事務所のケースワーカーと密に連絡を取り合い、話し合っている。(中央福祉事務所から出向いてくれる職員の方もいる。)地域包括の方から地域情報を聞くこともあり、前向きに連携を図るよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会社としての取り組みは身体拘束をしないケアの実践ですが時として「切迫性」がある時は家族の理解をもらっている。	やむを得ず、身体拘束をしなければいけない場合は、必ず家族の理解を得てから行っている。基本的には身体拘束ゼロであり、職員も実践を交えながら、拘束のないケアに取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員の疲労やストレスを少なく暴言や無視、いやがらせ必要なケアの放棄をしないよう確認している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	対応が必要と思われる利用者には職員計画作成者、家族にアドバイスをし支援につなげるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用料、重度化、看取り、医療機関など説明し理解納得し署名してもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には手紙や訪問時に話をさせてもらったり言ってもらえるようにしている。意見や要望は職員と話し合って共有している。	随時、利用者の現状や職員の思いを手紙に乗せて、家族に伝えている。また、利用者と一緒にドライブに出かけたり外出しながら、思いや要望を聞き出し、出来る限り対応できるように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングにはいろいろな問題点を説明し会社の考え方を述べて理解してもらえるよう常に努めている。	引き継ぎ後の日勤職員から、夜勤帯における実務の点での問題や意見があれば、その都度話し合い、運営に繋げている。随時、代表者は職員から意見や要望を聞き出す努力をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則や労働基準法に則り働いてもらえるよう整備している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所外で開催される研修には受講してもらうよう進め、発表の機会も持つようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員が地域内の施設見学に伺いサービス向上につなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で現在の生活の様子、介護についてよく話し合い納得してもらう努力を構築す。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	困っていること、不安なことをよく聞いて、受けとめるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な対応が必要な相談者には可能な限り柔軟な対応を行い、ケアマネージャー他の事業所のサービスにつなげる対応もする。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お互いが協働しながら和やかな生活ができるように心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の様子や職員の思いを細かく伝えることにより、家族と職員の思いが重なり本人を支えていくための協力関係が築けると思う。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までの利用者の生活を大切に地域社会と接点を持ってもらうように支援をしている。	行きつけの散髪屋さんに行ったり、身近な友人・知人・家族が遊びに来てくれるよう、継続した関係作りに努めている。また、馴染みの関係が途切れない環境作りにも力を入れている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症のレベルや性格等にかかわらず利用者同士と一緒に生活する仲間としてサポートし続けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族からの相談があればのったりはしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人を支える中で常に本人の思い、暮らし方を考えています。家族に伝えていますが理解されないこともある。	月間ケア会議の中で、利用者と一緒に座って話をすることで、利用者の思いや意向の把握に繋げている。また、利用者がストレスをためないよう、今の状態を維持しながら生活できるよう、個々に対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	その人らしい独自の生活歴や、ライフスタイル、個性、価値観の把握に努めているが情報開示しないプライバシーにはばまれることが多い。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の一人一人の生活のリズムを大切にしながらも全体的な集団でもあり兼ね合いが難しい。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントを含め職員全員で意見交換やモニタリング、カンファレンスを行っている。	月間ケア会議の中で、利用者一人一人の生活に沿ったプランを計画している。また、センター方式を活用し、利用者の視点に立ち、生活の質を落とさないよう職員全員で介護計画の作成、実施に真摯に取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事、水分量、排泄などの身体的状況日々の暮らしの様子を記録。職員に伝達確認してもらうよう努力。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に応じて通院や送迎等必要な支援は柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域生活を継続して暮らしていけるように警察、民生委員、町内会等開かれた施設として協力関係を築いていく。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	その通りである。家族同行の受診となっているが不可能な時にはヘルパーが同行している。	家族と利用者が希望するかかりつけ医への受診を基本としており、家族が対応できない場合には職員が対応している。また、2週間に一度、協力医療機関の先生が往診に来ている。緊急時の対応も適切に行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	診療所の看護師の指導により日頃の健康管理や医療面の相談助言対応を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関に対して入院の目的を早く達成してもらえるように話し合い、本人の普段の様子や生活を伝えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化に伴う意志確認書を作成し説明し納得してもらっている。	入居時、看取りの契約を交わしている。看取りの経験もあり、提携している看護師と共に情報を共有しながら、終末期に対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急車が到着する前の応急処置や準備すべきことについて勉強会や話し合いを行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方の訓練を定期的に実施している。	年2回、定期的に避難訓練を開催している。災害時の対策も視野に入れ、備品や避難用具の確認も行われている。スプリンクラーの設置も完了している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知だから、何もほとんどできないから・・・と つついその人らしい尊厳人格を傷つけた りすることがないよう気をつける。	生活面において、利用者の尊厳を確保しつ つ、様々な選択肢の中から選んでもらう手法 を取り入れている。また、肅々と介護にあたっ てほしいと願う代表自ら、私語は慎むよう厳 しく指導しており、利用者との会話を重視し、 プライバシー等に配慮した対応に努めてい る。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自 己決定できるように働きかけている	職員は利用者と過ごす時間を通して利用者 の希望、関心、思考を見極めて日々の生活 に沿う努力をする。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に生活と一 日の中でしないといけない作業もありバラン スが大切だ。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように 支援している	本人のスタイル(帽子やスカート洋服)を把 握し、その人らしさを保つように支援してい る。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好み や力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備 や食事、片付けをしている	職員と利用者と一緒に食事するための努力 は決して手間をおしまず季節の旬を感じる 料理につとめている。	誕生日や行事によって、お寿司やケーキ等を 取り入れ、食事に変化を持たせている。ま た、その時期の初物を献立に取り入れたり、 旬の食材を利用者と一緒の下処理しながら、 楽しく食事ができるように支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に 応じた支援をしている	その通りである。利用者の好みも考慮しな がら量・栄養・水分等常に考えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケ アをしている	食後の口腔ケアを支援している。歯科を読 んで磨き方、歯の歯石等も指導してもらって いる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表や申し送り時尿、ウンチについて話をするよう努める。一人一人のサインを見のがさずトイレ誘導を確実に実施する。	職員は各利用者の排泄状況を排泄チェック表や申し送り等で把握し、一人ひとりのサインを見逃さないよう確実なトイレ誘導に徹している。その際、利用者のプライバシーにも十分に気を付けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動不足なため便秘になりがちである。排泄チェックを見ながら食物と運動、牛乳等で便秘をなくす努力をする。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は楽しみのひとつであり、のんびりゆっくりと入浴してもらいたいと思う。	週3回以上の入浴を基本としている。入浴を拒否される利用者には時間をずらしたり、職員を変えたり、言葉を変えたりしながら気持ちよく入浴ができるよう対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夕方から穏やかで安心した時間を過ごしてもらいたいと配慮している。眠剤に助けられながら何とか気持ちよく休んでもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬のチェックは夜勤者が主にし、申し送りを受けている。常時飲んでいる薬と時に症状に応じてスポットとして出る薬とあるので記録、薬手帳、申し送り等で確認ミスしないよう努める。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらえるよう仕事頼み感謝の言葉を伝えるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出の希望があればよく聞いてスタッフと話し合い支援をしている。又希望があれば家族にも伝えているが。	日中は太陽にあたる事を心がけ、外出希望があれば職員間で話し合い、希望に沿った外出支援に努めている。また、家族にも協力をお願いし、外出・外泊や外食を楽しめるよう工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分でお金を管理している人と事業所が管理している人とあるが希望は聞いて欲しい物は買える支援をしている。お金の大切さは理解できている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙が書ける方は一人くらいです。事業所で本人の希望を聞いて家族に伝える支援はしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	“穏やかになごやかに”と理念通りおちついた生活安心な生活を支援する。	湿度・室温に注意しながら、快適空間で生活できるように努めている。日中は窓を開け、自然の風を取り入れるように工夫している。また、各利用者で作成した作品(ぬり絵等)や季節に合った作品を掲示し、心地よい空間作りに徹している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	物理的になかなか難しいです。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の持ち物、タンス、写真等の自分所有の品に囲まれ利用者の居心地の良さを工夫している。安心感はある。	愛着のある・馴染みのタンスや衣類、花瓶等を持ち込んでいる利用者も多く、個々の生活習慣に沿った居室づくりに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内で安全な環境づくりは提供していかないといけないのでエレベーターの点検、防災への配慮訓練点検等は定期的に業者に来てやってもらっている。		